



市議会議員 上田由美子 68-2106 Fax 68-2146



参議院議員 井上さとし



前衆院議員 藤野保史

3月議会 予算特別委員会

上田由美子議員の質問

3月議会予算特別委員会が13日から15日まで開かれ、上田由美子委員は13日に質問に立ちました。上田委員は「下水道水処理促進助成金」、「多人数学級支援講師の復活」、「保育士配置基準」、「国民健康保険税の子どもの均等割」、「市営バスのオンラインデマンド交通」について市民要望を取り上げ、質問しました。順次紹介します。



下水道水処理促進助成金

もっと増やせないか

上田委員はまず「下水道水処理促進助成金」について質問しました。市は、下水道が整備された地域で、供用開始から3年以内に下水道に接続した個人に上限5万円の助成をしています。供用可能件数と接続状況は下の表の通りです。

供用開始年度	接続可能件数	接続件数	接続率
2019	59	30	50.8%
2020	82	37	45.1%
2021	123	34	27.6%

供用開始年度と接続数

【上田委員】下水道事業計画区域にある散居村の家庭では、井戸水を使って生活していることと、単独処理または合併処理の浄化槽を設置し水洗化されており、下水道に接続する必要性をあまり感じていない方があります。また、下水道につながる場合の費用やその後の下水道使用料の負担が重いとを心配する方もあります。

環境をよくすることを理解し下水道につながる人を増やすために、助成金の上限をもっと上げる必要があるのではないのでしょうか。

【産業建設部次長】この助成制度は早期接続促進の動機付けのためで、より多くの対象者に利用して、接続率の向上に資したい。

上田委員は「多人数学級支援講師の復活」を求めました。市は新年度に25人のスタディメイトを配置し、支援を必要とする子ども173人の支援に当たります。この内31人以上の多人数学級は4クラス(石動小、津沢小とも各2クラス)あり、教員免許を持つスタディメイトを配置します。

多人数学級支援講師

担任に代わって

授業や給食指導、保護者への

対応が可能

【上田委員】2021年度まで小矢部市で配置されていた多人数学級支援講師は、30人学級が実施されていない中でとても大きな役割を担っていました。教員免許を持っている人が、担任を支援する制度です。それに対して、スタディメイトは教員免許が必要ではなく、支援が

必要ない子どもを支援する立場です。多人数学級支援講師は、校外学習の付き添いができるので、先に入りに行き参加人数などを書類に書いておけば、担任が児童を整理させて引率してきたときに入口で待たずに入ることができます。また、担任が出張や年休などで不在時には、担任に代わって授業や給食指導、保護者への対応ができます。音楽、体育、図工は先回りして準備することも大切な仕事です。今、タブレットを使った授業や休んでいる児童にオンラインで授業する場合もあり、教員の負担は増えています。多人数学級支援講師の必要性をどのように考えていらつしやいますか。

「担任の負担軽減となる支援もスタディメイトに依頼したい」

【教育委員会事務局次長】議員おっしゃるとおり教員負担が増えてきています。多人数の学級においては低学年の学

【上田委員】動機付けには金額が少ない。工事費用をどこから捻出するか、とても接続することができないという人がいた。例えば10万円に引き上げることができないか。

「この助成制度は本市が先駆け」

【産業建設部次長】県内で、このような助成制度を持っているのは本市の他、高岡市は令和4年度からで、この2市だけ。そういうことから、現行水準を維持しながら、より多くの方にご利用していただきたい。

県が流域下水道維持管理費を値上げ 市の下水道使用料に影響は？

【上田委員】今度の県議会定例会で、小矢部川流域下水道維持管理の市町村負担額が、1立方メートル当たり現行の55円から57円に値上げする案が審議されています。この案が実施された場合、小矢部市では下水道使用料にどんな影響がありますか。

「下水道使用料は上げない」

【産業建設部次長】令和5年度(2023年度)の予算では、汚水処理見込み量216万5千967立方メートルを見込んでおり、これに対し433万2千円の負担増となる。小矢部市は県のこの単価上昇分をふまえた経営試算をしており、令和13年度(2031年度)までは本市の下水道使用料を現行の水準で推移すれば、経営可能であると考えており、現時点では下水道使用料の値上げは考えていない。

【上田委員】物価や電気料の値上げで苦しくなっている市民生活にこれ以上の負担をかけたいため、下水道使用料を値上げしないことを要望します。

級において子どもたちが落ち着かないということも認識している。本市では厳しい財政状況のなか、令和4年度から多人数学級支援講師の配置を廃止し、代わりにスタディメイトでの実施をしている。今回新年度において、学校とスタディメイトとの間で協議を行った上で担任の負担軽減となる支援を依頼したい。また、その学級内で多人数による落ち着きのなさを防ぐことや、発達障害等の児童がいるようであれば、そのスタディメイトが対応する。

温かい教室づくりに、支援講師は必要

【上田委員】31人以上のクラスで担任の授業を補助できる多人数学級支援講師は、児童の様子を観察し、不安を抱えている児童に声をかけをするなど、温かい雰囲気のある教室を作り上げるうえで欠かせません。ぜひ多人数学級支援講師の配置を復活することを求めます。